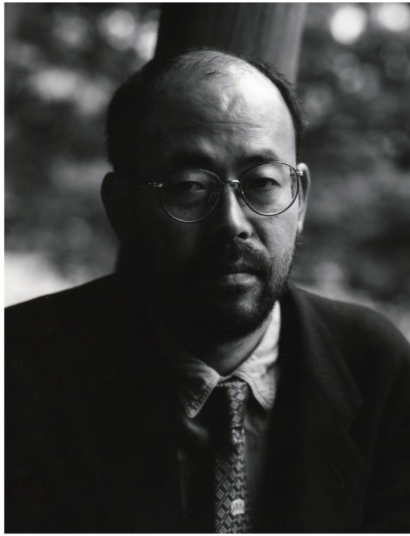


相米慎二は、
こんなに遠くまで行った。

没後20年
作家主義
相米慎二

アジアが見た、その映像世界

『台風クラブ』
35ミリニュープリント
特別上映

1
9
8
5

台風クラブ

脚本：加藤祐司

撮影：伊藤昭裕

出演：三上祐一／工藤夕貴／三浦友和



©キヌタマシキョウ



80年代、90年代、2001年を
駆け抜けた魂が、
いま、新たなステージに

2001年9月11日、アメリカ同時多発テロが発生。その2日前、9月9日、映画監督・相米慎二が逝った。あれから20年――。

その世界的な評価は遅れていると言われていたが、2012年にナント映画祭（フランス）、エディンバラ映画祭（イギリス）、シネマテーク（パリ）、2015年にはフランクフルト映画祭（ドイツ）などで、次々とレトロスペクティブが行われた。

2005年、全州（チョンジュ）映画祭（韓国）で行われた回顧上映で衝撃が流れた。そして、2021年、アジアでの再評価の波が来る。韓国映画「はちどり」は、本国はもちろん日本でも異例のヒットを記録。数年前には、台湾のエドワード・ヤン「牯嶺街（クーリンチュエ）少年殺人事件」のリバイバルが大成功を収めた。デジタルの時代、コロナ禍の時代、新たな映画の方法が求められている。アジア映画がもつ、荒々しさ、凶暴性。それを考えたとき、作家・相米慎二という名前が浮かぶ。アジアの作家や俳優、評論家がいま、相米慎二を改めて発見しようとしている。

日本でもまた、相米慎二を発見しよう。いま、日本に相米慎二のような作家は存在しているのだろうか。80年代を生き抜いた獐犛さ。90年代を生き抜いた繊細さ。そして、2001年（21世紀）に残したたった一本の別れの挨拶。

いま、作家・相米慎二が、ここにいる。

35ミリニュープリント上映 相米レジェンド作品

台風の日、校舎に閉じ込められた少年と少女たち。東京国際映画（ヤングシネマ）グランプリ作品。審査員のベルナルド・ベルトリッチが激賞したことは有名。ディレクターズ・カンパニーのシナリオ公募で準入選第2席となった脚本を映画化した。バービー・ボーイズの「暗闇でDANCE」「翔んでみせろ」、出演者たちが歌う「もしも明日が…」などの音楽が鮮烈な印象を残す。三浦友和の役者の転換点となった作品で、その演技はそれまでのイメージを超えた。

渋谷・文化村交差点左折

9月11日（土）-17日（金）公開

ユーロスペース EUROSPACE

tel: 03-3461-0211 www.eurospace.co.jp